新年度がスタート

平成23年度がスタートし、最初の行事第1回理事会には40人の理事以上 の役員が出席し、平成23年度の日本篆刻家協会運営の方向性が確認された。 引き続いて全国各地からの会員が一堂に会する新年会が、大阪市中央区の錦 城閣で開催され205人が参加した。



発行:日本篆刻家協会 563-0032 池田市石橋2-2-10-203 TEL 072-760-3852 FAX072-760-3853



ます。日本篆刻展と共に協会事業の二枚看板

年間行事としては八月の中央研究会があり

です。その上で出品者懇親会に出席しましょう。

中央研究会

その結果を求められます。又、一方で出品し

展覧会は当然のことながら年一回の機会に

て会場で作品を鑑賞する事が最も大切なこと

です。詳細は年間事業計画で発表されますが、

外部の講師による講演や分刻印譜もあ



の書や文物が蒐まるかは未定ですが期待出来 致します。現在調査中であり、どの様な唐代 の書や文物を会員収蔵の品々を借用して展示 観としては「唐代の書と文物」と題して唐代

ると思われます。



(上)福引きジャンケンで豪華景品をゲット (左下)新年の挨拶をする山下理事長

らしい作品を発表して下さい。

台湾印社との交流展 ―

流として四十数名の台湾印社社員の作品を交

さて海外との交流は本年は台湾印社との交

流展示致します。ご期待下さい。また特別展

れの事業も皆様の参加を期待しております す。詳細は印社代表にお聞きください。いず 台であり、皆様のご参加を心よりお待ちしま いでは折角の企画も実を結びません。 行もあります。友好交流と研修を兼ねての訪 ○月には台湾印社との交流の為、訪台旅

の向上と教養に是非ご参加下さい。参加しな り盛り沢山の企画がなされております。篆刻

新 年 度 に当 たっての所 Щ

下

をご出品下さい。五月の日本篆刻展では素晴 ます。皆様にはその資格において努力の結晶 が届いており製作に勤しんでいると推察致し れました。第二七回展は事実上スタートして ち、本年度の総会において事業計画が承認さ おりますが会員の皆様へは二七回展の出品票 既に新年会と総会前の二回の理事会をも

「中国名家楹聯の研究と鑑賞」の講義をおこなう井谷副理事長

③側款採拓の実習の三点に設定された。 同様に神戸舞子ビラにおいて行われた。参加者は昨年より約二〇名増. して、一七○名の本協会々員が全国から参加して開催された。 第三回中央研究会が八月二一日~二三日の二泊三日の日程で、昨年度 本年の研究テーマは大きく①楹聯の研究②シルクロードの印章の研究

50 点の楹聯の展示は壮観

していただ 研 究部が

> は、 0)

舞子の間には約五○点の楹聯が展観さ 説を中心に、井谷副理事長がユーモア にして行われた。(1) 楹聯の様式と歴 かりの『中国名家楹聯集』をテキスト 雲副理事長によって行われた。会場の 家楹聯の研究と鑑賞」と題して井谷五 マの一つである楹聯の研究が 発表割り当てがあり、その後研究テー 方亭理事長の開会の挨拶と分刻課題の 第一日、 (2)展観作品の作家紹介と作品解 今年本協会によって刊行されたば 受付終了後一三時から山下 「中国名

この『中国名 で分かりやす に富んだ口調 く講演された。

ろのものを提 所蔵するとこ 家楹聯集』 本協会々員の は

側款の刻と採拓の実技講習

前年の『日中 である。 製作したもの 解説を施して れを整理し 間を要してそ 年近くの時 。その

に引き続く大部の刊行物である。 名家刻印

選

多かったと思われる。 続き行われた。各先生方の採拓方法に 度となく話のあるところであり、 講習が行われた。 の先生方による側款の刻と採拓の実技 池田泥異・出田塘葭・東尾高岳の五人 作に取り組む。 で、受講者はその技法を学んで収穫が は少しの差異はあるものの見事な手腕 を受けて今回の実技講習は昨年に引き る側款の重要性は、 第二日、 午前中は各自課題分刻の製 同時に小朴圃・黄平斎 日頃から篆刻におけ 山下理事長から幾 それ

東京からお招き クロードの印章を をいただいた。本年の外部講師として て」という演題で小田玉瑛先生に講演 午後は「シルクロードの印章につい 小田玉瑛先生 た女流篆刻家 早くからシル

出し、

平田副理事長から講評があり、

午前一一時に閉会・解散した。

いものであった。

第三日、各自製作した分刻課題を提

交流することができたことは、意義深 究だけではなく小田先生と親睦を深め 親会にも同席していただいた。

単 に 研



日(土)から二二日(月)の二泊三日

平成二三年の中央研究会は八月二

講演する小田玉瑛先生

を期待して報告とする。(研究部)

とが決定している。さらに多くの参加

同じ舞子ビラで開催するこ

明をいただき、 なところであ にまとめてお いただき、こ 究会にご参加 めからこの研 には第一日始 た時間であっ 楽しく充実し 手にとって説 蔵の品々を展 る。先生ご所 では夙に有名 究成果を著 た。小田先生 実際に 篆刻界



「シルクロードの印章」の展示風景



現物で解説する小田先生

平成23年度総会が2月13日、ホテル大阪ベイタワーで開催され、全国各地から216人が出席した



の報告があり、

心からご冥福をお祈りい 出席者の落胆の意は隠

たします。 せなかった。

講演する西嶋慎一先生



う計画があり、 海外交流を行 また台湾との

(総務部) いた。

明がなされた。 から詳しく説 井 谷副 **m理事長** 総会に先立ち開催された理事会



伴う今後の協

高齢化に

理事会が開

か

立って企

画 委 総

会に

員

会

第二回

顧問の邊見仿厓先生がご逝去されたと あった。 について理事 会の運営方針 長から提案が また

> た講演であっ していただい

四時から懇親 藹々とした雰 を囲んで和気 た。西嶋講師 会が開催され

紹介もあり、 囲気で、最後 には新役員の

事業報告、

同決算報告、

り承認決定された。

本年度は北海道展

同予算案が提案されいずれも原案どお

平成二三年度役員選出、同事業計画、

事の司会で黙祷から始まり、

議事は山

午後二時からの総会は、大村代表理

下理事長が議長を務め、

平成二二年度 同会計監査報



懇親会のなかで新理事等を紹介



全国各地から参加の会員が交流する懇親会

講師は書道文化研究家の西嶋慎一氏 演いただいた。 「梅舒適先生をめぐって」と題してご講 総会に引き続き講演会が開催された。 前理事長のエピソード

日本篆刻家協会 平成二三年度総会

落ち着いた雰囲気の会場

された。 井セントラル七階スカイホールで開催 から六日までの六日間、 日本篆刻家協会北海道展は三月一日 札幌市大丸藤



印譜を手に取り鑑賞

された。北海道ではこのような大作を

折帖にまとめた印影とその刻印が展示

は常務理事以上の役員二五人による

見る機会がないため、大変な好評を博

点が四方の壁面に、 員札幌二四点、

会場中央の机上に

地元北海道の旭霽印会、北海印社が協

北海道展は日本篆刻家協会が主催

力した。協会役員の六○点、

地元の会

旭川一七点の計一〇一

遂氏をはじめ、

会理事上山 読売書

日本篆刻家協

長

氏

法 志

課長金丸

雄

役員による印影と刻印

REELE

指導があった。

また同日一八

の過程をポイントごとに添削を含めて

講習会で講演する山下理事長(中央)

00000

0000

八人と一般市民九 事からは作品作り 中島春緑各代表理 村高陵、酒居石荘、 珍印譜の展示と詳 の歴史、 下理事長による印 札幌一七人、旭川 しい説明の後、 人が参加した。山 珍しい袖 大



代表理事による指導風景

時から同所で祝

新聞北海道支社 され、来賓の読売 総務部次長事業 賀懇親会が開催

いありません。

(北海印社・竹田石濤)

井谷副理事長の音頭で乾杯

この機会にと、講習会が五日午後か

ら札幌第一ホテルで開催され、

会員の

人が出席した。北海



元札幌、 加の会員、 国各地から ほか役員、 会山下理事

旭

Ш

地 参 全

がご当地の民謡をと、どんどんと盛り 層熱気をみせ盛大な懇親会となった。 生トリオによる「札幌は今日も雪だっ 上がりを見せ、 た」のしびれるような?コーラスに 尾崎、井谷、平田各先 すると大村代表理事 節などを地元が披露 江差追分、ソーラン 道を代表する民謡の

来場、 員は講習会や展示作品を見て新たな発 の調和に感動していた。また、 も一点ごとじっくり鑑賞され、 を持って見られていた。一般の来観者 野北溟日展審査会員など地元書家も 六日間の来観者は延べ七五一人で 更なる意欲を掻き立てられたに違 特に役員の先生方の大作に関心 印と書 地元会

七月課題「長令宇宙新」

役 員(多田龍淵選)







睦苑





容庸

常任委員(佐川大羊選)



章石











龍山



立女



誠二





艸丘

委員(南岳杲雲選)





















正陽















般 (久松蒼雲選)





久利江

















保夫



菰田



碧翠



正男



桃苑



八月課題「守以静」

役 員 (小朴圃選)











克彦

常任委員(古溝幽畦選)













直佑



素月



拓石



静雲



伯龍

委 員(御手洗眉山選)











早知子



奎玉 員 (保田昌石選)



容史子



尚石





晋作





行石









般 (渡邉和琴選)



扇舟











勝山









桃苑



石舟



嫩碧



秀華



公朗

九月課題「三省」

役 員 (中島春緑選)





踏青



芳月





常任委員(伊佐治祥雲選)-













美津子

瑞邦

敏子



桃山

委員(石原豊玉選)













和代





墨石







会 員(市川両僊選)



















般 (伊藤雅夫選)











保夫



豊







勝山





秀華

7

十月颶區「長生安楽」

役 員(山下方亭選)











正歩

常任委員(大原邦舟選)-















博石



箕山



瑞邦



艸丘

員 (喜多芳邑選)













員 (黄平齋選)



蒼洋



啓子





象堂













般 (榊原晴夫選)











彌太彦





公朗



石舟





保夫



勝山



史郎

十一月課題「祥雲」

員 (井谷五雲選)









踏青



常任委員(佐川大羊選)-



立女















芝蘭



朱華



美津子

委員(南岳杲雲選)















雄山



粹香





正陽













般 (久松蒼雲選)









翠汀









碧翠



秀華



保夫





十二月課題「辛卯」

役 員(尾崎蒼石選)











常任委員(古溝幽畦選)—











蘭雪



拓石



直佑



九郵

紅舟 委員(御手洗眉山選) -













和代



翠邨



道男



早知子

会 員 (保田昌石選)









雅良



功勝

行石













般 (渡邉和琴選)



芙美子

















碧翠



渓州

嫩碧







世周

顏了

Compare Comp	月例	作	品	出。	品有	旨	7 J	月-																																				_							_
Compare Comp	岡上 汀華	ラナチレ		田中壽江	丸山蘇碩	松田碧草	福本青桐	北村斗舟	井本敏子	大橋実秋	○奥島艸丘	○亀井芝蘭	○木村誠二	○竹内立女	○榊原龍山	○杉本素月	○稲田一穂	○長谷川拓石	○古瀬章石	常任委員		山崎一雄	稲葉竹葉	丸田拓川	石原雲木	南輝代	高嶋満喜	重原祥雲	高野弘深	自廖虱	水巻游光	名倉克彦	正和杏葉	関野羊越	得永春水	遠藤米子人	度 形 芸 手 軒	堤白遊	阿部祥廬	浅野祥雲	上松荘夢	原田恵苑	今村董圃	藤田孝風	坂正歩	○木村容庸	○村田祥鳳	○挑睦苑』	○中野桂鵬	○曽田繁台	rk iii
Company Comp	青黄游 魚 澄	お口を図	通二兆副	橋本碧峰	小谷征	芦野優美子	丸山沙舟	干田耕翠	河瀬魚仙	矢野亀山	松井東游	鈴木恵草	吉田宗里	吉田鏡水	大庭景雲	常 日 日 日 能 神	岡田桂舟	宇都宮蘭雪	今西九邨	近藤胡蝶	金森喜渉	城下江曄	上田静雲	立石見聲	小澤博石	藤原岳風	筒井耕石	浅良朱華	竹中朴	木下芳秀	堀口秀雄	宮本帯耶	松本弘碩	榊原有光	谷口彩雪	田中九成	1 丁泰善三次松雲	篠浦錦風	上野鶴羽	伊藤桃山	藤縄尚子	桑原利一	宮井紅舟	石亀明峯	大田豊	小泉廣津	富山希祐	多田学友	関野山玉陵 プロミノ	太田恵水	岩寸尾虱
1 1 1 1 1 1 1 1 1 1	平料清嗣	医马利人		酒向誼桂	田原群蛙	飯田通敬	中石象堂	上田青煌	杉原照楓	松野碧泉	糙忠夫	山内真波	岡田郁夫	吉崎雲堂	川栄玉峯	J: 終蒙 大城容史子	羽田野雪里	宮野宗雄	田山堅	中西一系	松永平峰	長谷山墨石	藤本蘇西	西谷亀石	武友早知子	宮越素翠	高岡祥鶴	番定静山	管白峰	○前田正場	○字於崎碧峯	○ 佐藤翠龍	○中野桃華	_	_	○濱口韶曄	○荒川工糸	委員		杉山美華	永野草翠	瀧一六廬	森川恵扇	大槻直佑	水上健治	荒崎浄仙	内山楽水	古野燕安	杉山陳二	1日尾芳雲	ド野田季
Company Comp	大泉 春 華 泉	本 注 居 个	ジエ 割作	福島次郎	大江啓子	大川鳳石	谷啓子	小島風石	青木雄山	益邑隆			佐野哲舟	服部和代	安田邦石	今宮翆輝	天海信子	松田高州	高城玲子	小堀蒼洋			伏原準朗			西口叢映	佐藤幸	山本亮子	宮澤神竹	松本春石	把田俊雄	茶 上 山 连	小林空歩	加藤臥牛	内匠俊夫	新井碧峰	テキト山	熊木信男	大山敦子	稲葉桂峰	水上一雄	滝口照影	青木鐵生			西山進二	竹内霍山	山内紫泉	西谷桜泉	車堅康虱	公鳥畧邨
Part	内田哲舟	11/11/11	長睪典夫				市川桂水	葛西克己	森井昌雲	永井守	小林邦夫						木村笙山														平川法禅	吉娟 白畑芳翠						○松田仰風	_							○小幡青濤					尹也矣呆子
Part																						永田綾子																									鈴木宏皓	小嶋瑞碩			
(株理			_ ,_										•															_																							
中央学校 2011年 1911年 191	月例1	作	品	出。	品有	旨	8 J	月-											/>			_			_		_														,		,	_		_	_		_		_
## 1	谷口彩雲	10日金	ち田鏡を	永井箕山	倉野看雨	永野草翠	南敏子	橋本碧條	浅良朱華	竹内立左	瀧一六廄	○亀尾伯龍	○上田静霊	○長谷川拓云	○杉本素日	〇 今西九師	○宮本瑞邨	○水野和丞	〇田中壽江	○古野燕安	常任委員		得永春水	村田祥園	渡部芳日	石原雲木	中野桂雕	田原呉山	丸田拓川	山崎一峰	松田泰軒		南輝代	稲葉竹葉	堤臼遊	重原祥雪		関野羊越	水巻游光	坂正歩	原田恵茄	高嶋満喜	今村董圃	高野弘經	島穆風	○名倉克彦	○関踏青	○木村容庫	○浅野洋雪	○ 正阳杏莲	홋
(1)																					岡田桂島	水上健治																													三欠公
公司 (2) (2)																																																			
● (金)	泉 華																					松本春											-																		
特別	柴 久 利 香																																				9	窻							柱	į					
○ 1 日本				•	士									3.0						十												生						13/3												-	中里名
□ ()	一面	Ĭ	佳 清	雄	信	碩	雄	=	平:	美		,,,	陽	樹	6 1 1 1 1 1 1 1 1 1 1 1 1 1 1 1 1 1 1 1	玄	永	李	道	道	永		于						12 1	世 (711 PC	¥		□濤 ○大野勝	次 ○北岡弘	Л	E),]			彦		्या	/J	10 I	111	4H: 1	114 /		J 2	タル	. The
○上松荘夢 木村誠二 釼田白峰 飯田通敬 松本春石 清冰信昭 一	日個	4/=	- <u>-</u>	业.	므	¥	o 1	8.														关	笛	剪	子	彦	朗	華	碧	中 多	苑 う	? 鄃	=	Ш	学		泉	支	岩		念	芋	美 :	蓉)	崖	第 =	弓 -	翠 ラ	夫	華原	Nation Nation
本有清之 與田山縣 版田通敬 松本春石 清水官留									堀口秀雄	各務紅泉	筒井耕石	杉山美華	○伊藤桃山	○南敏子	○宮本瑞邦	○秋山名華	○水野和香	○篠浦錦風	○吉田鏡水	〇古野燕安	○松田碧草	常任委員		丸田拓川	原田恵苑	水巻游光	南輝代	坂正歩	増田繁治	山崎一雄	石原雲木	E 口 好葉	田原呉山	高野弘深	名倉克彦	遠藤米子人	兆 整苞 木村容庸	阿部祥廬	藤田孝風	高嶋満喜	関野羊越	得永春水	島穆風	村田祥鳳	松田泰軒	○ 今村董圃	○重原祥雲	○渡部芳月	○関階青	○上公住夢	克 司
● (基)				鈴木恵草						福本青桐			大橋実秋	榊原有光	上野鶴羽	稲田一種	太田恵水	吉田宗里	北村斗舟	永野草翠	小澤博石	杉山錬二	亀井芝蘭			小谷征	富山希祐				矢野亀山	亡 日 静 屋 石 慶 石				大田豊月		金森喜渉		城下江曄	干田耕翜	永井箕山	大槻直佑	稲垣竹扇	木下芳黍	湯浅翆嶺	橋本碧峰	宮井紅舟	岡上汀華	木村誠一	戋皂未審
無									_																																						_				
○ ○ ○ ○ ○ ○ ○ ○ ○ ○ ○ ○ ○ ○ ○ ○ ○ ○ ○																					津堅康風			谷川松雪																前田正陽											
松松 桁 前別 舟 福 平 平 平 原 畑 服 馬 酉 中 中 長 永 永 中 仲 中 永 中 仲 内 内 富 富 堂 土 堤 月 橋 田 田 田 立 高 高 高 高 高 神 関 鈴 節 笹 鈴 爺 主 柴 渋 清 滋 宮 本 田 府 山 本 中 川 井 田 春 都 楊 輝 臣 田 田 島 里 尾 井 井 豊 藤 市 園 岡 守 東 屋 戸 屋 戸 森 修 中 中 辺 石 橋 橋 橋 杉 木 純 恵 木 井 木 木 恵 久 谷 斉 信 野 智 倫 新 洪 和 剛 葭 法 妻 草 治 超 妻 草 岩 屋 野 華 恵 世 東 東 可 女 野 智 倫 野 草 田 田 田 立 高 高 高 高 高 高 高 前 桝 関 鈴 節 笹 鈴 糸 藤 久 谷 斉 木 野 智 倫 野 中 功 生 屋 戸 春 稼 中 中 辺 石 橋 橋 橋 杉 木 本 恵 東 久 谷 斉 信 昭 奉 町 西 山 東 東 東 三 永 江 江 昭 奉 三 永 江 江 昭 奉 三 永 江 江 昭 奉 三 永 江 江 昭 奉 三 永 江 江 昭 奉 三 永 江 江 昭 奉 三 永 江 江 昭 奉 三 永 江 江 昭 奉 三 永 江 江 昭 奉 三 永 江 江 昭 奉 三 永 江 江 昭 奉 三 永 江 江 田 田 立 高 高 高 高 高 高 高 高 高 高 高 高 高 高 高 高 高																																							_												
00000000																	-																													_	主藤恵北	柴久利江			
	Ť	· JĒ	£ 1=	私注									f							_									H93								4	羋													

																																							_ F	月伢	训作	FH:	出	品	者	10	
湯浅翆嶺	森川恵扇	井本敏子	富山希祐	芦野優美子	倉野看雨	稲田一穂	畑間青露	岡田佳舟	多田学友	上野鶴羽	亀井芝蘭	○奥島艸丘	○宮本瑞邦	○永井箕山	(き田龍神	○秋山名華	○今西九邨	○舘智舟	○立石見聲	○岡上汀華	常任委員	進音芝月	度那 亨 一 左	山 奇 一 椎 田 祥 鳳	南輝代	水巻游光	丸田拓川	松田泰軒	曽田繁台	京日 恵 相 居 相 居	鲁 廖 虱	得永春水	桃睦苑	高野弘深	高島茜喜	関踏青	正和杏葉	重原祥雲	木村容庸	七公士多	石原雲木	浅野祥雲	○坂正歩	○松本翠女	○田原呉山	○祭田孝虱	役員
水上建台松田美津子	亀尾伯龍	小泉廣津	筒井耕石	谷口彩雪	金森喜渉	通二挑園	成下工曄	青黄斿魚	水野和香	山口藤華	藤原岳風	吉田宗里	古野燕安	古瀬章石	札山美華	河瀬魚仙	稲垣竹扇	堀口秀雄	各務紅泉	伊藤桃山	大庭景雲	大橋実秋	沙山東二	浅 良长莲 福本青桐	北村斗舟	鈴木恵草	長谷川拓石	南敏子	宇耶宮蘭雪	薬 甫帛虱	陸山泉水	松本弘碩	矢野亀山	大田豊	少 体素目	田中壽江	木村真澄		榊原龍山	上 日 争 宴	《 予 直程	葭岡慶石	白尾芳雲	丸山沙舟	大槻直佑	丘툫胡喋	ヨコ しず 日 月 和 月
佐藤 直美 生於崎碧峯	宮越素翠	安田和代	山上嶽照	平松清嗣	石川羊碩	浅野道男	岩蚌峡舟	車堅表虱	天毎信子	森原晋作	服部和代	管白峰	水上一雄	栄玉峯	11. 上於	大城容史子	青木雄山	加藤臥牛	中西一系	濱口韶曄	樫野美久代	西谷亀石	哲子安良	公 於 下 上 進	廣田笙鶴	藤本蘇西	前田正陽	川田紅渓	茶本山華	- 豪奇登子	○仲村美智子	○小林啓子	○小堀蒼洋	○筧芳桂	○ 整 動 目 ○ 松 野 碧 泉	○吉崎雲堂	○武友早知子	○西□叢映	委員	才下芳秀	三次松雲	太田恵水	西口青咲	藤縄尚子	竹鱼	沙田白峰	公日
の 佐藤幸	益邑隆	安田邦石	安田佳舟	内匠俊夫	曽我雅峰	福島次郎	大泉香華	横手賀山	岡田郇夫	酒句誼桂	高城玲子	松田高州	平富耀	杉原照楓	中居然屋	松嶋翠邨	大山敦子	肥田俊雄	井本究石	伏原準朗	原田園代	伊田香泉	山下美雲	·	稲葉桂峰	松本春石	森田時雄	笹倉柳石	谷路子州	当日井因	金丰留華	宮澤神竹	小島風石	笹倉瑞峰	FF 卒手	今井朴仙			番定静山			羽田野雪里		平井涛峰	新井碧峰	山内紫泉	丁 村 稲 廬
丘	土屋功勝	小林邦夫	吉田申隆	下倉遥水	高橋忠義	宮崎外笠一	河田 東 重 東 重	小買剛	·	高橋冲玄	永田綾子	市川桂水	藤本忠義	中井榮子	吉三友	中尾恵笙	鈴木祐輔	森本翠汀	舟山和雄	馬澤幸子	生嶋晨空	磯村育治	安井寺良	中导效次	野田邦子	松原凌峰	長原正和	富岡教行	川久 幂明	向田坊 重	中豊台	森静二	滋野草翠	植野堀真弓	○荒卜杉昜	○松本倫子	○八木正明	○永井守	○三原大	○介下城三	○鈴木玉峰	○小林英昭	会員	1	佐野哲舟	ジエ周乍	(一駄)
雷山蘭翠田辺碧水	原田泰久	森井昌雲	内藤華泉	笹井岳峯	大井智枝	小幡青壽	青山正人	服部台子	畑春草	松室絹代	松田仰風	小林寅次郎	吉原愛璃	田中白猺 可順	主扇思力	金内ヨウ子	境山正甫	堤浮生	別府洪石	刑部玉水	横関良清	橘修一見	完	大垣内悟道	高木啓志	杉村ひふみ	堂守唯文	平川法禅	田中良子	尹泰嘉言	馬易廖虱	渡曾俊正	和田扇舟	香川公子	計司能 計田載石	高橋博	松本光雄	内藤正男	中村紀久	高田博夫	野田紀夫	松山嘉津子	粕川真人	中本崇加	山岸英雄	青水言昭	西田貴美子
						川上敷碧 日	宮友斌田	三井鎖了	小野木秀華	清水正男	吉田豊	○北出史郎	○広森保夫	○長谷邹石舟	○祖房彌太彦	○大野勝山	○飯田公一	○須田桃苑	○松本一	○國江碧翠	— 般	少 糸牙	中屯住	内田哲舟	荻野蒼雲	立石雄二	矢田高秋	柴久利江	かれ 龍溪	大 家 豪 春	也学宝尌	丸田岳僊	梅林香堂	仲里隆峰	大哥ピ羊	佐瀬理絵	村手俊彦	近藤芙美子	森俊吾		高 が 直 畑 芳 翠	内木場八夫	山崎隆平	五十嵐忠	伊井啓	柒青光	シスロニ 長涯英治
												_						_																					— Е	月伢	训作	F品	出			11	
葭岡慶石 古瀬章石	田中九成	井本敏子	畑間青露	藤縄尚子	杉本素月	今西九郎	富山希佑	大喬実秋	秋山名華	○松田美津子	○浅良朱華	○亀井芝蘭	○青黄游魚	○宇耶宮蘭雪) 〈井貫 】	〇上田静雲	○岡上汀華	○竹内立女	常任委員		堤白遊	遠藤米子人	九日石川	可那羊 <u>蟹</u>	村田祥鳳	石原雲木	正和杏葉	得永春水	山崎一雄	度 那 考 目	高鳥茜喜 上松扫夢	名倉克彦	関野羊越	増田繁治	斯爾代	水巻游光	松田泰軒	田原呉山	桃睦苑	高野仏架	藤田 恵 苑	今村董圃	○木村容庸	○関踏青	○畠穆風	○桟野羊雲	谷員
^鈴 木恵草	内山楽水	三次松雲	立石見聲	樋口桃園	石亀明峯	谷口彩雪	千田耕翠	桑木利一	新井 計 計 二	木村誠二	白尾芳雲	水上健治	太田恵水	松田曽草	月 月 月 月 月 月 月 月 月 月 月 月 月 月 月 月 月 月 月	田中壽江	堀口秀雄	芦野優美子	金森喜渉	島蓬舟	釼田白峰	水野和香	各月 植申	起己自主						沙山東二	友				龍一二蓋	奥島艸丘	各務紅泉	古野燕安	大田豊	泰京舌風	丸山蘇碩	森川恵扇	南敏子	瀧上紀翠	荒崎浄仙	宮井 紅 舟	装用书制
平公青祠	新井碧峰	荒川紅絲	小島風石	森原晋作	中石象堂	曽我稚峰	大川鳳石	藤井告	川米玉峯	茶本仙華	西山進	岡田郁夫	金井榴華	安田和代	1 長谷山墨石	廣田笙鶴	松野碧泉	吉崎雲堂	濱口韶曄	岩井映舟	山内真波	谷川松雲		式 マ	○前田正陽	○西谷桜泉	○手塚粹香	○青木雄山	○山吹縁	○公永平争	○大成容更子	○番定静山	○渡邊尚石	委員	泗瀨焦仙	大庭景雲	榊原龍山	木下芳秀	近藤胡蝶	竹户卜	能智舟	山口藤華	北村斗舟	西口青咲	城下江曄	岡田圭 帝 野 君 雨	11年11年7
高島 一 に に に に に に に に に に に に に	松本春石	内匠俊夫	杉江周作	中川輝陽	宮澤神竹	田村稲盧	大工啓子	杉原照風	宮野宗雄	森田寺雄	酒向誼桂	高城玲子	平井涛峰	神原悠園	植手雲山	益邑隆	管白峰	小林空步	石川羊碩	羽田野雪里	松田高州	宮越素翠	経野追へた	青木鐵生	笹倉柳石	今井朴仙	浅野道男	稲葉桂峰	小林啓子	熊大言男	近上 強 照	田山堅		伊田香泉	寛 一	加藤臥牛	服部和代	山下登雲	松嶋翠邨	泰 坛 亲 互	· 小谷敏之	佐藤翠龍	肥田俊雄	天海信子	今宮翆輝	平富羅	元族主火
吉岡龍主	長沼梅風	小嶋瑞碩	吉三友	佐瀬理絵	内藤華泉	藤本忠義	森川雨琴	公京麦峰	安井芳泉	小幡青濤	永田乾石	中尾恵笙	五十嵐忠	福本剛志	月日日春夕	仲豊治	小川憲石	野田邦子	村手俊彦	木村笙山	高橋忠義	畑春草	か 大 玉 浄 山 江 沙	生嶋 晨空	主藤恵水	下倉遥水	和田扇舟	矢田高秋	木村行石	長人到工 一	○森本翠丁	○伊井啓	○高橋博	○中井榮子	○箟山底岸	○三原大	○福谷華紅	○長澤蘆山	会員	付房準則	中西 — 系	山本亮子	佐野哲舟	安田佳舟	山内紫泉	車堅康風 安西幸恵	え 可幸 恵
森 変 吾 東 恵	小林寅次郎	内木場八夫	横関良清	松田仰風	安藤貞道	中村紀久	喬本族月	大島光羊	夹谷管工	大垣内悟道	高橋次男	河原静峰	立石雄二	为 丑哲舟	柏材香堂	仲里隆峰	石原白蓉	永田綾子	近藤芙美子	土屋功勝	市川桂水	木南美智子	川船手筝	川久保明	鈴木誠三	西岡貴美子	高橋裕進	荒木彬陽	度曾发王	青卜言召	山岸 英雅 素 島龍 三	松山嘉津子	青山正人	小貫剛」	山泰催 良	長原正和	富岡教行	月森康生	舟山和雄	11日月至平	松宮智	中島敬次	小林邦夫	長浜英治	八木正明	山村千火	対象に見
吉田豊	宮坂菰田	三井顔了	目比畦草	長谷部石舟	清水正男	大野勝山	牛島世司	○松本一	○広森保夫	○國江碧翠	○北出史郎	○神原彌太彦	○川上嫩碧	○小野木秀華	○石峪公郎	○飯田公一				別府洪石	佐田亜由美	笹井岳峯	新沙圭善	柒争二 吉原愛璃	水内創哲	磯村育治	鈴木龍蹊	艸純雅	尹藤嘉言	小平全法	並 子惟女	滋野草翠	刑部玉水	宮崎外茂一	白川真人	倉永柳葉	松本光雄	馬場穆風	大井智枝	多大日子	展 住紀夫	高田博夫	近藤酔念	平川法禅	馬澤幸子	九田岳霍	ヨワ 曽く
																																							_F	月伊	训作	F品	出	品	者	12	
城下 江華 翠	谷口彩雪	田中九成	浅良朱華	杉本素月	三次松雲	古野熊安	易実翆嶺	岡上丁華	荒崎争山	古賀京子	竹内立女	○今西九邨	○大槻直佑	○長谷川拓石	○宮井紀尭	○小澤博石	○青黄游魚	○瀧一六廬	○亀井芝蘭	○宇都宮蘭雪	常任委員	和事作事	消度 有意	身 永 巻 游 光	関野羊越	山崎一雄	藤田孝風	堤白遊	村田洋鳳	長野羊雲	名 含 克疹	南輝代	正和杏葉	重原祥雲	吉廖 虱木	増田繁治	桃睦苑	原田恵苑	木村容庸	1.日石川	村田泰軒	今村董圃	○岡本愛	○坂正歩	○高嶋満喜	○度邪芳月	谷具
木村誠二	内山楽水	篠浦錦風	桑木利一	宮本瑞邦	多田学友	橋本碧峰	方申 トチ	北村斗舟	杉山美華	丸山沙舟	上田静雲	畑間青露	吉田鏡水	石亀明峯	松本弘確	大庭景雲	太田恵水	各務紅泉	金森喜渉	河瀬魚仙	岡田桂舟	千田耕翠	ト長舞車	泰禺尚子	舘智舟	伊藤桃山	雪縄寳石	樋口桃園	白尾芳雲	畐本軒同	 ち順章 与 東島 明 の	杉山錬二	井本敏子	鈴木恵草	札山茱萸	近藤胡蝶	永井箕山	上野鶴羽	矢野亀山	七禹ミ火	新 井 村 田 一 穂	田中壽江	秋山名華	葭岡慶石	寄田龍神	龍上記翠	4月1日育
福島欠郎	山内紫泉	西山進	横手賀山	川栄玉峯	飯田通敬	井本究石	安田和代	也田翠苑	竜口照影	羽田野雪里	管白峰	西谷桜泉	笹倉瑞峰	西谷亀石	古編雲堂	天海信子	小谷敏之	中西一系	佐野哲舟	山内真波	番定静山	大泉香華	所 丰 皇 备 番 日 名 雀	選 日 É 身 肥 田 俊雄	田山堅	大城容史子	松田高州	宇於崎碧峯	山上鮾照	高城令子	今宮軽軍	大山敦子	荒川紅絲	佐藤幸	小島風 三平松清嗣	前田正陽	○水上一雄	○谷啓子	○浅野道男	〇 石川 主確	○武友早知子	○津堅康風	○松嶋翠邨	○服部和代	○山吹縁		金田丘山
○占岡龍生	○仲里隆峰	○高木啓志	○永田乾石	○安井芳泉	○木村行石			会員		賓口紹華	大川鳳石	中野桃華	山本亮子	杉江周作	1、任家	伊地美保子	益邑隆	田原群蛙	青木鐵生	宮越素翠	穐原華園	藤井浩	裕度圭条	公 好 小 影 翠 龍	曽我雅峰	森原晋作	松本春石	岩田耕烟	安西幸恵	茶本山華	度多的 日 世 一	杉原照楓	脇田喜久	上田青煌	上言雅	伊田香泉	岡田郁夫	中川輝陽	金井榴華	骨 大 惟 山		小堀蒼洋	熊木信男	糖忠夫	岩井映舟	柒 田時雅	11 世紀
高橋忠義 松宮智	富山蘭翠	森俊吾	月森康生				畑春草	舟山和進	長召梅虱	中井榮子				大垣内悟道		橋修一	長浜英治			岡田泰道	小平隆志	内木場八夫					10)		永井守督						「大臣月田中良子				鈴木玉峰	左日重白色	向畑芳翠					尹泰嘉言	(
主藤恵水	小貫剛	五十嵐忠												小嶋湍頂				磯村育治				田辺碧水								一 沙大和子					公本命子				内藤正男		在言語			小林寅次郎			
. ,				- '		. /	1		, -	'			'		, –	,	,54	,	•			7、 万米代学		D 反置習子 以 清水正男					長谷邪石舟本原引之産	_	○丰島世司				- 一人類工事製工				— 他	7						、 長原圧和	

西泠印社国際篆刻選抜大会

西泠印社名誉社員に中島春緑氏が



春緑氏が最 われ、中島 際篆刻選抜 西泠印社国 印社主催、 開催の西泠 州に於いて 大会が行な

各氏が入展した。(尾崎蒼石)

終審査に於

いて西泠印社名誉社員に選ばれた。 審査は、 九月二六日、 西泠印社副社

李剛田、 数点が出品され、 長の劉江、 返しにより最終的に篆刻作品八点、 見落とさないことに注意し、その繰り 品からまた拾い上げる、と佳い作品を 審査方法の概略は、 から約九○点、 八〇〇点、 杭州華辰国際飯店大ホールで行なわれ 款作品二点を選んだ。この中に中島春 人の審査員 公平を旨として厳正に行なわれた。 中国各地から選出の篆刻作品 童衍方各氏他十人と日本の四 側款拓作品二〇〇点、 韓天衡、 (小生のみが参加) により、 台湾一○点、 審査に当たっては公 一度落選とした作 陳振濂、 韓国二〇 朱関田、 日本 側

> 中島大夢、出田塘葭、 賞の他、松田泰軒、足立瑠泉、中村葉舟、 緑氏の作品が入り、 東尾高岳、喜多芳邑、 出品参加四一人中、 終試験に挑み、見事名誉社員となった。 なお、 松本雅至、 早川聴芬、 日本篆刻家協会評議員以上で 出海太学、太田桂翠、 黒田玉洲、 南岳杲雲氏の優秀 一一月一〇日の最 池田泥異、 坂本舜華、 古溝幽畔 下井 出来

> > かりし頃に夢を抱く。

実技試験の書法・篆刻作品の課題制作を終えて

第です。 みている次 さを身にし 責任の重大 それよりも ありますが、

中国の西泠印社に注目して、

書画の精

神の神髄を学び「西泠印社中人」を若

んで行く内に、

文人憧れの聖地である

を回り書画・文物の収集を始めて楽し

中国杭 · 年 九

西泠印社社員に推挙されて 中島春緑





受賞作品

ある時、 等を集めて独学する。 ち、 も五○年が過ぎた。 い頃に篆刻に興味を持 参考図書、 会津八一の随

書画 文真筆を入手した事を知り、 が苦労をしてやっと念願の呉昌碩石鼓 筆集を読み、中国興味の強い秋草道人 日古書を探したり、 以後上京した折りは神保町古書街で終 ・文物に興味を持つことになる。 各地の書道専門店 私も中国

> に入れていただく事になり、 支援をいただき、 この度は計らずも仲間の皆さんのご

西泠印社社員の仲間

感無量で

「印神の助け」

枚も何百枚も書くこととなる。その中で練度が ば、それが一番よいのだが、そうでなければ何 ことは禁とされている。一枚だけで満足がいけ 深まったり、 くかけなかったからと言って、補筆をして直す たりもするわけではある。 書は一回性の芸術と言われ、基本的にはうま 逆に慣れすぎて感動が少なくなっ

果として補刀に繋がる)、奏刀する中で石質が悪 ければ補刀が認められている。というより補刀 ないことに越したことは無い。石井雙石は確か ヤーッとしたことのある人は多いことと思うが 意に反して大切な線等が欠けてしまって思わずヒ 補刀することを嫌ったと記憶しているが…。 を前提として仕事が進められる。勿論補刀をし ところで補刀とは直接の関係はないのだが(結 その書に対して篆刻は一回の刻で満足できな 力の加減がうまくいかなかったりで

結果としてその自然の欠けが一番生気があり、

かっているように思う。その意味で篆刻は如何 潜んでいる美を如何に見出すかという一点にか ことがママあるものだ。意に反して欠けてしまっ 自分が刻した線の何と平凡なことか、と感ずる で刀を擱くかであろう。 様にも変わり得るし、その過程の中でどの時点 たら、それを基として作風を変えてゆくしかな 思えば、 篆刻とは今ある不完全な刻の中に

神の助けは他の人より多いようで、実にありが たいことである。 (助け)と呼んでいる。どうも小生の場合、この 先のヒャーッとする欠けを、天の神様の命令

偶然欲書

梅雪爭春





13

ス

ツ

越思篆会研修会報告 六月一三日、

山県民会館に於い 修会を開催、約 招き、越思篆会研 篆刻家協会の現状 七〇人が出席した。 山下方亭理事長を て日本篆刻家協会 「印の歴史」、日本

拓を作品に使う様 甎や硯、瓦などの 款拓本の採り方、 について講演、側

る講演と実技、会 員も熱心に受講し 指導され、出席者 た。四時間にわた 全員が採拓実習し

盛況のうちに終了した。 来久しぶりの講演にて大変評判が良く大 た。梅舒適先生以

紙に次のとおり掲載された。 人場者総数は一○二○人であった。地元 一八日~二三日地元南砺市で開催され、 本協会吉江翠光評議員の個展が九月

書や篆刻、四○年の集大成 福光美術館 吉江さん初めての個展

場者が目を凝らした。 成となる書や篆刻の作品三五点に来 美術館で始まり、書業四〇年の集大 山新聞社後援)は一八日、同市福光 ん=本名・喜美子=の書・篆刻展(富 南砺市吉江野の書家、吉江翠光さ

年に日展会友の書家、中島春緑さん に師事して以来、数々の書展で入賞 吉江さんは一九七〇(昭和四五年)

も特別展示され 作品「海老図 え、中島さんの の書や篆刻に加 は吉江さん自身 開いた。会場に て初の個人展を の節目を記念し を重ね、

拓とともに来場者の注目を集めた。 展示され、 た。また、 (富山新聞 二〇一〇年九月一九日) 器に刻まれている銘文の 中国古代の青銅器二点が

不華篆会習作展X咖 ―デザインとして見る篆刻の展開



ターB展示室で開 丹市立工芸セン から一九日まで伊 XIIIが九月一七日 不華篆会習作展

の企画展示のテー 催された。 同会場で開催中

マに合わせ、本年

四三点を展示した。この展覧会は自由に 皿や箸置き等の陶器、コースター等紙加 篆刻-を掲げ、会員二一人がオーソドッ は-「夢」をサブテーマに生活の中の書・ 発表できる場として設けられたものだけ や鉄筋を加工したもの等々工芸的作品計 クスな篆刻作品と工芸的な手法を用いた も見られた。 に、普段できない自由な発想による作品 工類、ランプ、袋物等布類、彫金ジュエリー

庫県立丹波の森公苑展示ギャラリーで、 巡回展として同じ内容で開催された。 (内田真弓) また、同二三日~二六日に丹波市の兵

第二五回畦石舎作品展

ザイン博物館において、第二五回畦石舎 一〇月二日~四日、京都岡崎の日図デ

展観、来場者の好評を得た。 を数十点と、朴圃自用自刻印一五〇選を 回を記念して特陳として中国画像石の拓 会員の書画篆刻数十点に加え、二十五



遠邇篆会篆刻展を 展示室で第一九回 日クリエート浜松 人柄が出たバラエ マは自由で作者の 五八七名でした。 開催、来場者数は 今回も作品テー 一一月二日~七

うで、特に彫った石の実物を見られたの もよかったそうです。 書展とは違う篆刻展は興味深いもののよ 二四節気、印と印影を机上展示しました。 ように感じました。恒例となった分刻は

うね。」など、感想をいただきました。 いう静かな美というのもいいねぇ」とか そうで熱心に作品を見ていただけ「こう 「かなり修練しないとこうはならないだろ ご来場くださった方は、どなたも楽し 作品展を開催した。

第一九回遠邇篆会篆刻展



鑑賞が楽しめる作 かげもあり、篆刻 指導や講習会のお が揃い、日頃のご ティに富んだ作品

品が多く見られた

月例課題出品者の皆さんへ

─会報上の取り扱い変更の経緯説明─

理事長 山下方亭

今回の結果に至った経緯をご報告致します。 次号からの誌面変更に驚かれる事と思います。

かを議論しました 算を契機に改めて会報は何の為に刊行しているの ついて百七○万円が計上されていました。この予 れによりますと競書出品者の処理をシステム化に ステムの更新についての予算案が出されました。そ 昨年一一月の企画委員会において当協会の会員シ

で結論の出ないまま、常務理事会に移動。ここで 象であります。色々議論され午前中の企画委員会 は無視することも出来ませんが会報は全会員が対 現在は毎月三百七、八〇人の出品があり、この数字 り現在に至りました。(篆美は五千円の篆社社費) 見があり会員と一般が出品する案が採用されまし 篆美からの経緯で一般にも開放して会員に繋げる意 タートしました。その折に会員の為の発行に対して その折の意見を集約しますと概ね次のようです。 たが、有償無償の決定がなされないまま発行にな も結論に至らず最終的に理事長に一任されました。 発刊当初は取敢えず二、三年で見直すことでス

-現状の報告と問題点--

- 一、競書整理システムは導入しない。
- 二、同資格者による競争の無益。印社内に生ずる
- 三、審査にあたる常務理事以上の方の負担(ボラ ンティア)の軽減。応募者の書き出し等を軽
- 四、編集部の負担(ボランティアで行っている) 本来の会報としての趣旨が月例課題の方向に

以上の様な経緯から出した私の結論が次号からの 紙面変更です。

出来ると考えました。 の労苦に感謝し、今後の編集の軽減を計ることが 今までこの月例の編集に当られた編集部と審査員

い変更点| - 次号からの月例課題出品作品の会報上の取り扱

○秀作一○点の印影を掲載(役員は五点) →各資格で秀作五点の印影掲載

○全出品者の姓号を掲載 →秀作五点、次点一○人の姓号を掲載・ その他の応募者数のみを発表

印 社 活 各 動

第一一回

関中篆書・篆刻展を終えて



家協会、岐阜県教 において日本篆刻 いただき隔年で開 化協会のご支援を 育委員会、関市文 旦 関市文化会館

教経済委員長、教 議長、関市議会文 の関市長、市議会 事ができました。 から開場式、地元 回関中篆書・篆刻 催している第一一 展を無事終了する 五日午前一〇時

場に華を添えていただきました。 ほか多数のご来賓に出席いただき展示会 会場の第一室は篆刻作品六九点、主宰 育委員長、教育長

塘葭、稲垣華扇各先生、岐阜篆会地元の を陳列、これも来場者の的となりました。 初めての試みで、それなりに見れる作品 ず文字を記し、これに側款、採拓が原則、 第二室は篆書作品二四点、課題作品五一 しい硯が並び来場者の的となりました。 代から宋代の木や青銅、ガラス硯など珍 平田蘭石所有の硯二八点を陳列、主に漢 とができました。 交えた。これも楽しいひと時を過ごすこ 先生のほか、多数のご出席のもと一献を 雲、酒居石荘、小朴圃、久米義山、出田 家協会尾崎蒼石副理事長をはじめ井谷五 「じゅらく」において、来賓の日本篆刻 点を陳列、中でも課題作品は肖生印に必 六日の午後五時半から地元の料理店

今回の関中展の入場者は三日間で

びに関係各位のご協力の賜物と社中一 最高位での大人気、これも偏に諸団体並 同、感謝を申し上げ、この書面をお借り 六五五人、地元関市での展覧会としては して厚くお礼申しあげます。 (実行委員長 武井岳峰)

一一月五日~七

第八回娯惲文会展



から一四日の六 展が、一二月九日 娯惲文会の第八回 日間、神戸元町の アートホール神戸 井谷五雲代表の

会員六五名が書及び 分刻し、折り帖什 女図」を六三人で にて開催した。 薩都剌の詩

篆刻家協会幹部の多くの先生方も出席を 篆刻作品を出品。一一日には懇親会を神 ることができた。ここにお礼を述べ報告 いただき、盛会のうちに第八回展を終え 立てで展観した他、 とする。 . 「神仙閣」にて開催したところ、 日本

第七回篆刻書画作品展の開催 (蒼文篆会草津教室)

(井谷五雲)

列いたしました。 特別陳列の尾崎蒼石先生「書・篆刻歴 は蒼文篆会草津教室で学ぶ六名の作品と 五○年」の記念として作品約四○点を陳 近代美術館で開催いたしました。出品者 一二月一五日から一九日まで滋賀県立

験には六○数名の参加があり、皆さんが 好評を博しました。一八日の篆刻実技体 二〇代、三〇代と各年代の作品を陳列し 尾崎先生の作品は、高校時代の作品や

謝致しております。



喜ばれて一顆をつ ただきました。

陳列したことが良かったと思います。

好日会書篆刻展を終えて (師子堂房翠)



トルームを会場に た。 点で開催しまし 新をテーマに六〇 日まで、長令宇宙 一月七日から一一 岐阜中電パレッ

展覧会であるとの励ましの言葉を頂き感 た。ご来場の方々に年々の向上と楽しい きい規格に取り組め継続の力を感じまし とした歩みではありますが従来より大 私の旧作も並べさせて頂きました。遅々 上としました。そして会員の要望により よる法帖の臨書作品、 半折にまとめた作品、 自由作品は半折以 5 会員各自の選択に 拓を付し二分の一 の篆刻課題の中か 日本篆刻家協会 五顆以上側款

習った事や水墨画 出品でしたが、中 の作品約六○点の 加え、日頃教室で くり持ち帰ってい でも磁印を作って 品は、篆刻作品に 私たち六名の作

訃 と続けておられましたが、腹部悪性腫瘍の為一月 先生が、昨年九月下旬脳梗塞で入院治療リハビリ 日本篆刻家協会顧問で壱篆会を主宰する邊見仿厓 一八日逝去されました。享年八六歳。読売書法会 報



参与・日本書芸院参事を務められました。

邊見先生の訃報に接して ― 理事長 山下方亭

一月三一日、顧門の邊見

ないと思います り、先生あっての篆社であった事は余り知られてい 篆社時代より常に裏方に徹してくれた大先輩であ と思っていた矢先でありました。命日は一月二六日 ていましたが元気になられたらお見舞いに行こう した。先生は梅先生の一番古いお弟子さんとして、 ありました。先生が倒れて入院された話は伝わっ 〔八五歳〕余りにも早い黄泉への旅立ちでありま は家族葬にて執り行われた 書芸院より入り、告別式 仿見仿厓先生の訃報が日本 事をご報告いたします。と

薫陶を受けた方々も今となってはありし日の先生 書や篆刻を熱く語って止まることを知らず、その 段は寡黙な先生でしたがお酒が入ると饒舌になり の役員も多くいることがその証しであります。普 の人材が育っています。先生を恩師とする当協会 導を受けた教え子が現在書道界、篆刻界へ数多く の芸術論を懐かしんでいる事でしょう。 兵庫県の教育界での功労は無論の事、先生の指

協会でのご意見番|

引受け下さり、理事長として頑張れ!とのお言葉 ました。協会の顧門就任をお願いした時も快くお 持ち君のやる事は間違っていないとのご助言を頂き に大先輩でありながら裏方の仕事に徹して頂きま きました。先生と私は相性もよく協会創設以来常 まして奥様と親しくお話をさせて頂きました。 亡 した。協会のあり方には一言居士ながら一家言を **| 生先生の芸術家としての一端を垣間見ることがで** き先生の思い出話をして書斎も見せて頂き邊見仿 長谷川常務理事、私の四人で先生宅に弔問に伺い **を頂いたのが昨日の様であります** 二月二六日 (水) 井谷副理事長、小代表理事、

謹んでここに邊見仿厓先生のご冥福をお祈り致し 年の功労に対してお礼を申し上げてまいりました。 信楽院大譽仿厓居士の霊前で協会を代表して永

展覧会案内

覧

会

の

協

会

の



























常務理事会

二月二七日(土)

事務所

平成二三年度 新年会 第一回理事会

大阪錦城閣 月一六日(日)

講演会『梅舒適先生をめぐって』 平成二三年度総会 第二回理事会 (西嶋慎一先生)

懇親会

▼第二七回日本篆刻展

京都市美術館

四月五日~一〇日

五月一七日~二二日

大阪市立美術館 地下展覧会室

▼ 井谷五雲・小朴圃・眞鍋井蛙

第三〇回 六轡会篆刻作品展

▼ 随風會(山下方亭)

第二六回随風會篆刻展

▼日本篆刻家協会「北海道」展

会期 三月一日~六日

会場 大丸藤井セントラル七階スカイホール

ホテル大阪ベイタワー |月||三日(日)

大丸藤井セントラル七階スカイホール 三月一日(火)~六日(日) 日本篆刻家協会北海道展



▼ 畦石舎(小朴圃)

会会場期

京都文化博物館

八月二四日~二八日

第二六回 畦石舎作品展

第二七回展審查準備

中央会館 四月一日(金)

第二七回展審査会

▼ 不華篆会(酒居石荘)

京都市日図デザイン博物館

一〇月一日~三日

不華篆会習作展XK

- デザインとして見る篆刻の展開

伊丹市立工芸センター

同一二日~一六日に丹波市で巡回展

一〇月八日~一〇日

中央会館 四月二日(土)

第二七回日本篆刻展

五月一七日(火)~二二日(日) 〈特別展観 - 唐代の書と文物(本会員所蔵)〉 大阪市立美術館

▼ 齊平篆会(眞鍋井蛙)

第一四回 齊平展

大阪くらしの今昔館 一〇月七日~九日

第二七回日本篆刻展授賞式

ホテル大阪ベイタワー 五月二二日(日)

第三回日本篆刻家協会役員展

古河市篆刻美術館 六月二五日(土)~八月二五日(木)

第三回日本篆刻家協会役員展

六月二五日(土) 古河市篆刻美術館

開幕式·講演会

第四回中央研究会 ~菅野梁川の自用印を中心として~』 (真鍋井蛙副理事長) 『初世・二世中村蘭台とその周辺

特別講演 (山岡泰三先生) 『日本文人画の流れと篆刻について[仮題]

海外交流

シーサイドホテル舞子ビラ神戸

八月二〇日(土)~二三百(月)

台湾印社交流訪台 十月二二日(金)~二五日(火)

常務理事会

一月二六日(土)

企画委員会

事務所からの連絡・お願い

五月課題 誤「惜分陰」→正しくは「惜 ①月例課題のミス訂正をお願いします。

ります) 入ください。(記載がなければ一般にな ②月例課題応募には必ず会員CDをご記

③雅号の変更は前年十一月~当年五月

は随時受付します。 面で(FAX/MAIL 可)連絡ください。 六月から十月の間に協会事務所まで書 の展覧会準備期間はできません。 なお、住所変更・婚姻等の氏名変更

編 後 記

害「東北関東大地震」が発生しました。 からお見舞申しあげます。 ました。被災された会員の皆さまに心 まさに本稿を書こうとしたときであり ☆信じられない未曾有の地震津波災

動したいものです。 人一人が自分に何ができるか考え、行 国民が被災者」の気持ちで、私たち一 れました。一刻も早い復旧にむけて「全 ることながら津波の怖さを見せつけら ラッシュバックしてきます。地震もさ 十六年前の阪神・淡路大震災がフ

りごく一部しかご紹介できませんが、 解をお願いします。(S) 別掲理事長判断のとおり皆さんのご理 おります。会報上の取り扱い変更によ ☆月例作品に多くの応募をいただいて

編集:会報部

木村容庸 酒居石荘 榊原晴夫 内田真弓 中村葉舟

でお寄せください。 お気づきのこと、ご意見など事務所ま

MAIL: info@n-tenkoku.jp FAX: 072-760-3853